２０１８．７．３１

大草

**白内障手術メモ**

2018．7.10に右目、24日に左目を横浜市立大学附属：市民総合医療センターで手術（執刀医：山根真先生）を受けた。その概要を記録しておく。

記

**＜１日目（前泊）＞**

10:30入院手続き（4人部屋）

12:00昼食

17:40～18:00入浴

18:00～担当医の診察と手術承諾書の説明

18:15～夕食

22:00消灯

**＜2日目（手術日）＞**

8:00朝食

9:20点滴用の針のセット

10:00看護師の検診（血圧、体温、指先酸素量）

10:50執刀医の診察（3分）「頑張りましょう」と医者の励ましの言葉あり

⒒:00以降は食事禁止

13:00以降30分毎に目薬2種（抗生剤と瞳孔拡大剤）をさす

13:00点滴開始（抗生剤30分、栄養剤5時間分：手術後状態を見て外す）

14:45看護師が車イスで手術室に連れて行ってくれる

15:00～15:15手術（詳細は後掲）術後、執刀医から「お疲れ様。順調に終わりましたよ。」と声かけあり。翌朝まで、眼帯を着用。看護師補助で車イスにて入院室へ戻る。

15:30異常なしのため、点滴を外してくれた。（手術中、右目のとき血圧156、左のとき190であったと。）

18:00夕食

21:00点滴（抗生剤）開始。30分間。

21:30点滴終了のため、点滴用の針をやっと抜いてくれた。

22:00就寝

**＜3日目（手術翌日）＞**

7:00担当医の診察。眼帯を外すと初めて綺麗に見えた！順調であり退院OKの診断

8:00朝食

9:30退院の説明（朝昼夜寝る前の４回の点眼を要す）

10:00退院

**＜手術の概要＞**

・麻酔の注射針やメスが見えて恐ろしいのではないかと心配していた。しかし、そのようなものは全く見えず、光を見ているうちにいつの間にか終了していた！心配無用です。

①手術台に横になる。腹にテープを張ったり血圧計をセットし、顔に布をかけられる。

②手術する目を軽く閉じ、眼の周囲を消毒される。顔に目を固定するシールが貼られる。

③医者が「始めます、三つの光の真ん中を見ていてください」という。始め、医者の顔がちらっと見えたが、すぐに光と水ではっきりしたものは見えなくなる。

④目に水をかけられているようであったが、いつ麻酔し切開したのかも分からなかった。

⑤５分ぐらいすると、医者が「濁ったものを取り出しました、これから新レンズを入れます」という。

⑥新レンズが入った途端に、金色の観音様が見え始めた。元の三つの無影灯の光の二つはぐにゃぐにゃに見え、一つがくっきりした観音菩薩に見えた。

⑦般若心経を心の中で唱えていたが、南無阿弥陀仏と南無妙法蓮華経の両方を唱えたが、南無阿弥陀仏の方がピタッと来た（南無妙法蓮華経は攻撃するときに威力を発揮するのではないかと思った。手術を受けているなどの受け身のときは、南無阿弥陀仏のほうがしっくりくるように感じた）。（後日、観音様が見えたと執刀医に報告したら、宇宙旅行のようだったという人もいたり、色々見えるようですが、観音様は初めてですと。）

⑧医者が「終わりました」というと、ライトがパッと消えて、観音様も見えなくなった。

⑨顔に貼られていたシールを剥がされた。

⑩手術台から降り、車椅子に乗り、手術室を出る。執刀医が車イスの横に来て「大草さん、順調にいきましたよ！」と声をかけてくれた。「ありがとうございます」とお礼を言う。この医者の一言は、本当に嬉しかった。

**＜白内障のレンズの選択＞**

・レンズは、大まかに分類して以下の３種類。予算と眼の状態と眼の使用目的（車の運転など遠近両方の視力が必要など）により選択。高額なものがよいとは限らないことに要注意。

①保険適用の単焦点レンズ：費用片目６万円

②先端医療としての多焦点レンズ（遠近の二焦点）：片目60万円※

　※先端医療対象の保険に加入しておれば、保険適用可能。但し、厚生労働省の指定病院・指定手術方法・入院であることなどの条件がある。

③上記以外の保険非適用の多焦点レンズ（遠、中、近の三焦点）：片目80万円

　私の場合は、白内障の他に、緑内障、紅彩炎、ブドウ膜炎などの他の病気があるので単焦点レンズがよいとの医者の判断。目は、緑内障などの視神経に病気があると、多焦点レンズを入れた場合、視神経の負担が大きくなり好ましくないこともあるとのこと。従って①で焦点は読書に適した３０cmとし、近視のメガネをかける必要のあるレンズを選んだ。（私の場合、神奈川県の県民共済保険に加入しており、先端医療も可能ではあったが、医者のアドバイスに従った。）

**＜通院か入院か＞**

・通院の場合前日、当日、翌日と通院するため、病院が遠い場合は、入院をお勧めする。

但し、大部屋は騒々しいこともあるため、耳栓やイヤホンを持参するとよい。

・入院するなら、眼科専門の病院での入院が望ましい。（眼科以外の受診科の重病人と同室だと落ち着かないため。同室の重病人の吐血などで、食事も咽喉を通らない状況も有り得る。）

・個室の場合、追加料金が一日16000円～25000円ぐらいの費用が加算される。

　（高額なため白内障の手術での個室使用は避けたいものです。）

・手術後、一週間はシャンプーと洗顔は禁止なので、夏場の手術は避けた方がベター。

**＜手術するタイミング＞**

・私の場合は、白内障のレベルは、５段階評価で2番目に悪いレベル２で手術をした。

　レベル４とか5の段階になると手術しにくくなる場合もあるとのこと。見えにくさの自覚症状と医者の判断を参考にタイミングを決めるのがよいと思われる。

＜短歌＞

＜蓮の咲く　本覚寺にて　眼の祈願　菩薩に会えて　手術楽なり＞

＜暑い夏　白内障の　手術にて　光る菩薩に　会えた嬉しさ＞

＜般若経　唱えて願う　成功を　菩薩に会いて　嬉しくなりぬ＞

＜新レンズ　入ったときから　見え始め　終了で消える　光る観音＞

＜二回目の　手術が終わり　世の中が　綺麗に見えて　新世界あり＞

以上